

5. 共用の実践に向けて確かめる

これまで、地理空間情報の共用のゴールを目指し、2章では初期の体制整備、3章では共用の実践、4章では中長期視点での発展に向けた取組について非常に多岐にわたる事項について言及してきました。

そこで、最後に表 5.1-1 のチェックリストにより、地理空間情報の持続的・発展的な共用を推進するための要点について再度確認し、十分に理解できなかった点については再度振り返るようにしてください。

表 5.1-1 「共用」の実現を確かにするチェックリスト

持続・発展的な地理空間情報の共用にとって 重要な事項に関する問題		ヒントはこちら・・・
<input type="checkbox"/>	Q1 地方公共団体において地理空間情報の活用が求められている背景にはどのようなことがありますか？	1. 1. 地理空間情報の活用が求められる背景
<input type="checkbox"/>	Q2 本手引きは、地理空間情報の活用のうち、特にどのような概念を目指して作成されたものでしょうか？	1. 2. 本手引きの目的
<input type="checkbox"/>	Q3 本手引きは、実際に取組む3つの手順に沿った項目で構成されていますが、どのような手順でしょうか？	1. 3 本手引きの使い方
<input type="checkbox"/>	Q4 推進体制を構築していくにあたって重要なこととはどのようなことでしょうか？	2. 1 推進体制を構築する
<input type="checkbox"/>	Q5 地理空間情報の利用実態やニーズを把握することで、最終的には何を整理していくべきでしょうか？	2. 2 地理空間情報の整備・共用・更新における現状を把握する
<input type="checkbox"/>	Q6 地理空間情報の共用・更新のゴール（到達すべき目標）を設定するのに大事なことは何でしょうか？	2. 3. 地理空間情報の共用・更新のゴールを考える
<input type="checkbox"/>	Q7 地理空間情報の共用・更新の効果を取りまとめるのに重要なことは何でしょうか？	2. 4. 地理空間情報の共用・更新の効果を把握する
<input type="checkbox"/>	Q8 複数の主体で地理空間情報の共用・更新を進めるために検討すべきことはどのようなことでしょうか？	2. 5. 地理空間情報の共用・更新のための費用分担を考える
<input type="checkbox"/>	Q9 推進体制が地理空間情報の共用・更新情報を管理する上で、最も大切な考え方は何でしょうか？	2. 6. 地理空間情報の共用・更新の進捗状況を管理する
<input type="checkbox"/>	Q10 共用が期待される地理空間情報にはどのような種類、特性のものがあり、どのような業務に活用できるのでしょうか？	3. 1. 共用が期待される地理空間情報の特性を確認する
<input type="checkbox"/>	Q11 共用の準備としてシステム・データ環境のあり方を検討するのに大事なことは何でしょうか？	3. 2. 地理空間情報の共用のためのシステム環境を整備する
<input type="checkbox"/>	Q12 地理空間情報を共用する前に、気をつけなくてはいけないことは、どのようなことがあるでしょうか？	3. 3. 地理空間情報の共用のための準備をする
<input type="checkbox"/>	Q13 地理空間情報を共用して、業務に活用することを考える際、どのような視点が必要でしょうか？	3. 4. 地理空間情報を共用して業務を行う
<input type="checkbox"/>	Q14 地理空間情報の共用にあたって想定される課題には、どのような種類のものがあるでしょうか？	3. 5. 地理空間情報を共用するにあたっての課題を解決する

5. 共有の実践に向けて確かめる

持続・発展的な地理空間情報の共有にとって重要な事項に関する問題		ヒントはこちら…
<input type="checkbox"/>	Q15 中長期的な視点で、システム環境を見直すにあたって必要な視点や、検討の内容は何でしょうか？	4.1. 地理空間情報の共有をふまえたシステム環境を見直す
<input type="checkbox"/>	Q16 中長期的な視点で、地理空間情報の更新は、どういう観点から重要でしょうか？	4.2. 共有をふまえて地理空間情報を更新する
<input type="checkbox"/>	Q17 地理空間情報の共有を持続的・発展的にしていくために、推進体制をどのように見直せばよいでしょうか？	4.3. 地理空間情報を持続発展的に共有できる体制を整えていく

振り返りはいかがでしたか？解答は次頁の表 5.1-2 に掲載しています。

あとは、動きだすのみです！

あなたの地域で、地理空間情報がうまく活用されることを祈っています。

表 5.1-2 チェックテスト解答

問題	回答
Q1 地方公共団体において地理空間情報の活用が求められている背景にはどのようなことがありますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい財政状況、多様化する市民ニーズへの対応等、行政が抱える課題は様々ありますが、それらの課題解決の一助として、地理空間情報やGISの活用はとても有効です。 ・ また、地理空間情報活用推進基本計画(平成20年4月閣議決定)で目指している「地理空間情報高度活用社会」に向けては、地方公共団体も重要な担い手として位置づけられています。
Q2 本手引きは、地理空間情報の活用のうち、特にどのような概念を目指して作成されたのでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地理空間情報を複数の主体で「一緒に用いる」＝「共用する」という概念に重きをおいた解決策を提示しています。 ・ 共用する範囲については、まずは市町村の庁内を想定しています(市町村と都道府県及び地域団体との共用については、別冊「地域版」にまとめられています)。
Q3 本手引きは、実際に取り組む3つの手順に沿った項目で構成されていますが、どのような手順でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①地理空間情報の共用・更新のための準備・計画(2章)、②地理空間情報の共用(3章)、③地理空間情報の持続的・発展的な共用(4章)の3段階です。
Q4 推進体制を構築していくにあたって重要なこととはどのようなことでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村で地理空間情報を整備・利活用するにあたって達成したい目的にあわせ、①主導する主体をどこにするか、②推進体制の役割を何にするか、③どういう組織体にするか、を考えることが重要です。 ・ はじめから大々的な推進体制を構築しようとせず、まずは当面の目的に応じた体制の構築に注力しましょう。 ・ 推進体制の目的・検討内容・権限等については明確化し、スケジュール感を持って検討を進めましょう。
Q5 地理空間情報の利用実態やニーズを把握することで、最終的には何を整理していくべきでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用実態、ニーズに合わせて、地理空間情報を取り巻く環境を把握することが重要です。具体的には、地理空間情報のシステム状況、活用している人材等です。 ・ 活用実態とニーズの差異に着目して、その要因等を明らかにすることで、解決すべき課題を整理します。
Q6 地理空間情報の共用・更新のゴール(到達すべき目標)を設定するのに大事なことは何でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール(到達すべき目標)は、課題・ニーズ及び環境要因をふまえて、短期的・中長期的な時系列の軸をもって考えることが大切です。 ・ また、それらのゴールに向けて、どのような役割分担で、いつまでに、どのように取り組むべきかというロードマップ(スケジュールの全体像)を作成、共有することが重要です。
Q7 地理空間情報の共用・更新の効果を取りまとめるのに重要なことは何でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用と期待される効果を試算し、それをわかりやすく取りまとめることは、地理空間情報に関わる予算の確保、関係者間との合意を形成する上で非常に有効です。 ・ また、共用の効果は、定量的に把握できなくても、市民サービスの向上や高度な政策立案といった定性的な効果もあわせて把握することが重要です。
Q8 複数の主体で地理空間情報の共用・更新を進めるために検討すべきことはどのようなことでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数主体間での費用負担について、各主体が納得感をもてる分担方針を検討し、合意していく必要があります。 ・ 費用負担パターンは様々ありますが、主体のニーズやメリット等に合わせ、情報の精度、更新頻度やタイミング、システムの機能等、費用以外の部分も合わせて総合的に考えていく必要があります。
Q9 推進体制が地理空間情報の共用・更新情報を管理する上で、最も大切な考え方は何でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進体制は、「PDCA サイクル」に基づき、「定期的に」進捗を把握する必要があります。さらに、必要があれば、ロードマップや実施計画を見直していきます。 ・ そのため、定期的な情報共有に加え、重要な事態が発生した場合には、都度、推進体制での情報共有の仕組みを整えることが望まれます。

5. 共用の実践に向けて確かめる

問題	回答
Q10 共用が期待される地理空間情報にはどのような種類、特性のものがあり、どのような業務に活用できるのでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内には、地図、画像情報、統計、台帳といった様々な地理空間情報があり、それぞれの特性は異なります。 ・ 地図や画像情報としては、都市計画基図（地形図、白図）、地番図・家屋図、航空写真、各種主題図、また地図に付加できる情報等としては、台帳情報、統計情報、住所等の検索データベースについて本書では解説しています。
Q11 共用の準備としてシステム・データ環境のあり方を検討するのに大事なことは何でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム導入形態のあり方の検討として、①地理空間情報の電子化の範囲の検討、②システム統合の程度の検討、の2つの視点からの検討が必要になります。 ・ システム・データの連携・統合にあたっては、幅があるため、柔軟に対応していくことが必要です。
Q12 地理空間情報を共用する前に、気をつけなくてはいけないことは、どのようなことがあるのでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共用するには、事務的手続き、技術的処理といった事前の準備が必要となる場合が多いです。 ・ 特に、事務的手続きとしては、個人情報に該当する場合、データの利用範囲に制限がある場合に対応が必要となりますので、技術的処理も合わせて、運用体制を円滑にする方策が必要となります。
Q13 地理空間情報を共用して、業務に活用することを考える際、どのような視点が必要でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全庁型のGISなど、必ずしも大規模なシステムを導入しなくても、共用環境は実現できるものです。 ・ 多様な地理空間情報と、多様な主体の組合せにより、業務の活用には無限の可能性があり、創意工夫により、できるところから試していくことが大切です。
Q14 地理空間情報の共用にあたって想定される課題には、どのような種類のものがあるのでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術的な課題、事務手続き上の課題、情報共有や発信のための課題があります。 ・ 技術的課題としては、データ形式、測地系、事務手続き上の課題としては、個人情報を含む情報の取扱い、知的財産権保護の考え方、情報共有や発信のための課題としては、メタデータ・クリアリングハウス、インターネットによる公開等があります。
Q15 中長期的な視点で、システム環境を見直すにあたって必要な視点や、検討の内容は何でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ システムの再構築の考え方としては、①自システムに統合、②他システムに統合の2つの考え方があります。システムの更新の方向性を考えるにあたっては、自システムのことだけではなく、全庁的な視点や他の主体との連携の視点をもつことが必要です。 ・ 再構築の要否については、まず、システムの現状把握を行い、見直すシステムイメージを検討し、それによる費用対効果等の把握をもとに、方針を見直していきます。
Q16 中長期的な視点で、地理空間情報の更新は、どういう観点から重要でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地理空間情報の更新を行うタイミングは、他の主体とも共用を促進するために課題を解決することができるチャンスと捉えることができます。 ・ また、庁内各課における調達について、多様な主体により共用されることを前提とし、調達のあり方を検討していくことが重要です。
Q17 地理空間情報の共用を持続的・発展的にしていくために、推進体制をどのように見直せばよいでしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進体制面の見直し、拡充にあたっては、庁内外の人材、ネットワークを最大限に活用し、体制を発展させていくことが求められます。 ・ 推進体制による、計画の見直し、経験の蓄積・共有により、各地域の課題解決のために、地理空間情報の共用の輪を広げていくことが求められます。